



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

11月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

minriUSA711@gmail.com

2016年(平成28年) 11月1日(火)

NO. 183

二〇一七年度倫理研究所
USA並びに南カリフォル
ニア倫理の会

委嘱状交付式

九月十八日(日) 午前九時
よりニュー・ガーデン・ホ
テルにて行われた

進行は伊澤潤子さんの明る
い声で始まり、滝川歌子さん
の落ち着いた進行が途中で挟
まれる形で行われる。門園美
枝子ディレクターの開式の言
葉の後、米国、日本国の国歌
斉唱。引き続き国際部門担
当、内田文朗常任理事より倫
理USA並びに南カリフォル
ニア倫理の会の役員に委嘱状
が交付された。

飯田隆倫理USAプレジデ
ントが挨拶。これまでの二十
一年間を活動して来られた先
輩方に感謝の意を述べると共
に、今年度十一月より倫理U
SAには南カリフォルニア倫
理の会に加え、法人会が加わ
り、車の両輪が揃う。会の自
立に向けて、講話者六名、ま
た二名のしきなみ短歌講師が
加わった。十一月十二日には
丸山敏秋理事長がお越しにな
るので、今日を初めとして、
全米に羽ばたいて行きたいと
述べた。

次に、前田グレース倫理U
SAトレジャーが、「氏家
正子新経理部長を助け、川田
末子新会長と共に倫理の発展
に努めます」と決意発表。

続いて川田末子南カリフォル
ニア倫理の会会長が「朝の
集いを充実させる。講話者が
増えたので、活発にさせて行
きたい。イベントを開催す
る、倫理の実践と普及に取り
組み、会員を増やしたい」と
力強く述べた。

尾崎勝宏普及部長は、「各
班長とのコミュニケーション
を密にし、共に働き、普及活
動を楽しくやって行きたい」と
と意気込みを述べ、ホン史子
事務局長は、「藤間富士子会
場係、尾崎よしみ会員係、そ
して草野律子書記、(並びに
図書・誌友係)の三人の力を
借りて、喜働、愛和に努め
心帰一となる様、川田会長を
明るく支えて行きたい」と明
るい笑顔で語った。

最後に、(一社)倫理研究
所国際部門担当、内田文朗・
常任理事の挨拶を戴く。

「今までは『創生』と呼んで
いたが、今年度からは、倫理
がスタートした一九四五年九
月三日を『創始の日』とし、
今年度を『創始七十一年』と

する。また、海外担当として
内田文朗常任理事、伏木久登
部長に高橋哲也研究員を加え
た。この二本立てで海外への
倫理を広めて行く。

八月末現在、家庭倫理の会
は六百八十箇所、倫理法人会
は六七、九四八社。南加に今
年法人会が成立するにあたり、
これまで二十一年間、
倫理の灯を絶やさずに来られ
たみなさんのご努力があった
からこそ・・・と、感謝を
述べて締めくくられた。

『世紀の歩調』を皆で斉唱
の後、門園美枝子ディレクタ
ーの閉会の言葉により、無事
に委嘱状交付式は終了した。
今年度、初めてホテルにて
委嘱状交付式が行われた。全
てきびきびと、流れるように
行われ、司会の声も明るく響
き渡り、式を取ることで、役
員は、夫々の自覚を深めるこ
とができ、清々しく、新たな
気持ちで胸に終えることがで
きた。

(草野律子記)



丸山敏秋理事長訪米

倫理法人会設立記念式典

十一月十二日(土)

会員総会

十一月十三日(日)

倫理の会運営の大事な行事で
す。どうぞご参加ください。

二〇一七年度役員

本部

国際部門担当常任理事

内田文朗

国際事業部部长

伏木久登

研究員

高橋哲也

倫理研究所USA

プレジデント 飯田隆

セクレタリー 川田末子

トレジャラー 前田グレース

ディレクター 滝川政和

ディレクター 門園美枝子

南カリフォルニア倫理の会

会長 川田末子

普及部長 尾崎勝宏

事務局長 広報 ホン史子

経理部長 氏家正子

経理副部長 梅本和子

しきなみ短歌チーフ 伊澤潤子

秋津書道チーフ 長谷川公子

一班班長 伊澤潤子

二班班長 橋勝雄

三班班長 大竹信雄

四班班長 前田グレース

五班班長 与那覇寛雄

書記 図書・誌友 草野律子

会場係り 藤間富士子

会員係り 尾崎よしみ

レクチャラー 滝川歌子

レクチャラー 梅本豊造

レクチャラー 梅本和子

レクチャラー 前田グレース

レクチャラー ホン史子

レクチャラー 飯田隆

しきなみ短歌講師 ホン史子

しきなみ短歌講師 松永典子

秋津書道講師 滝川歌子

懇親・演芸会

九月十八日(日)午前十一時から午後二時半まで倫理オフィスで開いた。二部に分かれ、式典は川田会長の挨拶、役員の決意発表があり、伏木部長が「苦手に挑戦するのも倫理の実践のひとつです。思い切り楽しませよう」と挨拶された。お弁当の後、一時から演芸が始まる。次々と楽しい演芸が披露された。最後は全員参加の「炭坑節」と「カチャーシー」で息づく暇もないほど楽しい時間を過ごした。普及も娯楽も一所懸命するべきなのだと思得できた。

(参加者二十八名)



しきなみ短歌会茶話会

九月四日(日)午前十時半から二〇一七年度最初の歌会を開いた。元氣な新伊澤潤子チーフの挨拶で始まり、これまた想像に絶する熱し方で終わった。その高まりは褪めること無く、茶話会に持ち込まれ、用意されたサンドイッチやフルーツ、会員手作りのデザートの入ったプレートを前にした。

伊澤チーフより前チーフの草野律子さんへサンキュー・カードとお花、また副チーフを務め、草野さんを支えてきたホンさんと、司会役、会費徴収をした松永へサンキュー・カードが手渡された。それに、「しきなみ新人賞・佳作」を受賞された尾崎よしみさんへのオメデトウ・カードが用意されていた。新チーフの心配りが嬉しい。そんなチーフの影にいつも会を支

えて下さる滝川歌子さんがおられたこともここに記しておこう。

さて、草野前チーフの挨拶では、チーフになった馴れ初めが発表された。短歌会のお世話をされていた今は亡き、奥本洋子さんが倒れた時「しきなみ新人賞」を受賞し、あれよあれよという間に文化副部長になっていたと。それが二〇〇二年。それから、しきなみ支苑チーフ、文化部長、しきなみ支苑チーフとなり一四年間、大役をして下さったわけだ。その間に歌集「アメリカ」発行が二回、会報に「短歌のできた境地」の記載を六年間。「子供短歌コンクール」も始まり、チーフにとっ

ては大変な苦労があった。でも、チーフは言われる。「それらの間に、皆の短歌が見られ、自分も学んだ。積み重ねることは財産だ。作歌して出すこと、応募すること、これが大切。自分も色々支えられてきたから、これからは伊澤チーフを出来る限り助けて行きたい」

(参加者十二名)
(松永典子記)

クリーンアップデー

九月十七日(土)午前八時よりガーデナ市恒例のクリーンアップ・デーに参加致しました。十名の会員と、今回は偶然にも内田文朗局長と伏木久登部長のご出張が重なり快く参加頂き、合計十二名となりました。

「倫理の会」は今年で十一回目の参加となります。

前日にアメリカにお越しになられた先生方は、お疲れもお見せにならず、シャツが濡れるほど汗をかきながら一生懸命に清掃下さいました。これは正に「喜働」のお姿と拝見しました。昨年に比べると気温は低く、

好調なすべり出しでした。

ガーデナ大通りを二手に分かれて始めましたが、スタートラインには色々なポイ捨てが植え込みの中に沢山あり、一つひとつ拾うのが大変でした。でも全員の力を合わすと素晴らしいです。すっかり綺麗になりました。

ガーデナ大通りは市の中心商店街です。塵を清掃しながら、商店経営者が倫理の教えを学んでくださると、どのように大通りが、又、町全体が美しくなるだろうかと思いました。

橋勝雄さんが本職の道具を使ってどんどんと清掃を進めてくださったおかげで、思ったより早く終えることができました。

清風入 梧竹

丙申夏日 治望
2席 小倉 治望

清風入 梧竹

丙申夏日 幸子

3席 香山 幸子

すがすがしい書きぶりです。

頂き、各参加団体に州議会とガーデナ市より立派な感謝状をいただきました。

「日に一つ良いこと」参加者全員が「町を美しくする」というガーデナ市の主旨に賛同出来た事が何よりの幸せでした。

内田局長は「地域社会に密着した倫理運動」今日のような奉仕活動に参加する事はとても素晴らしい活動ですね。続けて参加する事を望みます。今日参加出来た事が良き思い出となりました」と感想をお話してくださいました。

伏木部長は「日ごろお世話になっているガーデナ市に、わずかですがお返ししている気分で清掃をしていました。皆さん、思っていた以上に真剣にやっておられたので、こちらも思わず力が入りました。そのため汗を流した後に頂いたタコスとコーラは格別でした。またTシャツは思い出に残る記念品となりました。ありがとうございます。――とのご感想でした。

参加くださいました皆様、お疲れ様でした。(十二名)

(梅本和子記)



お知らせ

長い間開かれていました土曜日の「倫理塾」は、梅本豊造講師が倫理法人会と倫理の会のレクチャラーとして多忙になったため、閉講することになりました。ありがとうございます。

『新世』 二ドル

会員の皆さま、倫理を普及いたしましょう。

毎月、もう一冊お買いいただきお友達に差し上げましょう。倫理をお知らせし、幸せになっていただきます。

おめでとうございます

『秋津書道』十月号 競書

- 入選 咲田静子 高等部 (東京)
- 入選 梅本豊造 々々
- 二席 立川宏子 一般部 (東京) 草書
- 三席 前田グレース 一般部 (東京) 行書
- 六席 竹内康子 々々
- 八席 榊中恵美子 々々
- 入選 大竹信雄 々々
- 二席 小倉治望 一般部 (東京) 楷書
- 三席 香山幸子 々々
- 入選 石岡美紀江 々々
- 入選 若佐邦彦 々々
- 入選 小山春香 々々
- 入選 井上郷子 々々

清風入梧竹

西中夏日 宏子

2席 立川 宏子

潤滑を意識し、堂々と書けている。落款まで見事に入っ

清風入梧竹

西中夏日 グレース

3席 前田グレース

ていねいにしっかりと長く書かれています。

『しきなみ』十月号

群螢集 (西東京・海外)

一席 松永典子

故郷の強度の地震に驚きぬ肉親身近に迫り来るなり

墓石が向きを変えたと姉は言う「まだ余震ばい」声の高ぶる

【評】外国で聞く故郷の震災被害。一首目下句二首目四句の姉上の言葉に作者の動揺が迫ってくる様です。

入選 長谷川松子

「いただきます」「ごちそうさま」の日本語は孫子の心に生き続けおり

青泉集 (中東京・海外)

一席 森田のりえ

廃屋の床を突き抜けし竹の子を取る人なきを知る里帰り

新緑の山間走る里帰り何より馳走と羅府に住む吾は

【評】ロスアンゼルスより里帰りされた作者、集落の変貌、しかし自然は何よりのご馳走と、しみじみと思いが伝わってきます。

三席 飯田隆

アメリカに法人の風がふきだした「打つ手は無限」やる気も充分

しきなみ短歌

櫻木に稲の精霊舞い降りて薄桃櫻満開となる 摺木洋子

悲観などせずすべてを受け入れるきつと必ず道は開ける 松元依子

岩山を杖を頼りに上る夫大丈夫かと不安がつる 滝川歌子

幾千の逝きし人への想い秘め海面(うなも)をおおう灯籠に合掌 杉野和子

あちこちの地区で始まるカーニバル沖繩ドーナツ・焼きそば旨し 長谷川松子

校庭で友と肩組み笑まう君角帽ガウンにネクタイしめて 伊澤潤子

帰郷して母の笑顔が眩しくて思わずハグして涙止まらず 飯田隆

ちかごろは難しい言葉口にするパーカー三歳の誕生日迎う 梅本豊造

二十年共に祝いし誕生日何時しか我等熟女となりぬ 梅本和子

「ふるさと」は遠くにありて思ふもの胸に沁み入るアメリカ暮らし ホン史子

三枚の翼が廻る風車林パーム・スプリングの丘は枯れ色 松永典子

ブルテリア三角の目で遠く見て遥かなふるさと惚んでるのか 尾崎よしみ

太陽は厚い霧盤押し上げて今日も元氣と満面の笑み 武田ゆき

杖をつき笑い求めて川柳のロスの句会の一員となる 森田のりえ

ひと回り小さくなりたる友なれど短歌評する切れ味最高 草野律子

何気なく手をつないでと思えどもつなげず妻と桜を見上ぐ 甲斐靖幸